

目指す学校像	一人ひとりの生徒が誇りをもち、保護者・地域住民に信頼され、未来を拓く学校の創造
--------	---

重点目標	1 教育DXのもと学習者が主体的に学ぶ個別最適な学びの構築と授業改善の推進 2 積極的な生徒指導と教育相談の推進により安心安全な学校づくりと活力ある学校行事の推進 3 学校運営協議会による地域とともにある学校づくりと地域で活躍する生徒の育成 4 同僚性を高め、協働して教育を推進する学校づくりのための教職員研修の充実
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

年度		学 校 自 己 評 価			年 度 評 価		学校運営協議会による評価	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	<b>【現状】</b> ○全国学力・学習調査や市の学習状況調査では、市平均と同程度という結果である。 ○学校評価における「一人ひとりに合ったきめ細かな学習支援を行っているか」の問いに対し、生徒の肯定的な回答は7割程度である。 ○校内学習状況調査で、「教科が好き」の回答が7割に達していない教科がある。 <b>【課題】</b> ○主体的に学ぶ姿勢の育成と個別最適な学びの構築が課題である。 ○学習に対しての興味・関心を広げ探究的に学ぶ生徒の育成を図る必要がある。 ○ICTの効果的な活用と、主体的に対話的な深い学びの指導の工夫と改善を追究する必要がある。	・主体的な学びを進めるための情報端末の活用、授業改善 ・実生活に生きる学びのための各教科の動機づけと教科横断的な学習の工夫	① 各学期に1週間ずつ校内公開授業期間を設定し、「学びのポイント」を活用した公開授業を全教員が行う。 ② 朝学習で週2回、スタディサプリを活用し、基礎学力の定着と、個別最適な学びへつなげる。 ③ 「学力向上カウンセリング学校訪問」を実施し、効果的な指導法を追究して生徒の学力向上を図る。	① 学校評価における「一人ひとりに合ったきめ細かな学習支援を行っているか」の問いに対し、生徒の肯定的な回答が75%以上となったか。 ② 「学力向上カウンセリング学校訪問」を踏まえ、効果的な指導法を追究して、「学びのポイント」を活用した公開授業を全教員が実施できたか。	① 学校評価における「一人ひとりに合ったきめ細かな学習支援を行っているか」の問いに対し、生徒の肯定的な回答は69.1%で目標値を下回った。 ② 「学力向上カウンセリング学校訪問」を実施し、効果的な指導法を追究して、「学びのポイント」を活用した公開授業を1・2学期に全教員が実施できた。	B	・学びのポイント「じ・し・ゃ・く」に基づく個別最適な学びをさらに推進する必要がある。 ① 自由進度学習を取り入れた授業を実施する。 ② 教科会を設定し、個別最適な学びを保障する授業のアイデアを共有する。 ③ フォルダを活用し、教材を共有する。	・小学校としては、基礎学力をしっかりと身に付けさせること、そして学びに向かう意欲や自分で課題を見つける力を体験学習を通して身に付けさせて中学校へ送り出したい。 ・学校は、学力を身に付けるところだが、自分の学校に誇りをもてることが一番だと思う。それが地域の誇りとなって社会に出てからも地域の誇りとして活動できるような子どもたちを育てていきたい。
2	<b>【現状】</b> ○学校評価における「木崎中が好き」の問いに対して、生徒、保護者とも肯定的な回答は8割を超えている。「連絡・相談に適切に対応している」では、保護者の肯定的な回答は8割を超えている。 ○安全教育における避難訓練は概ね真剣に取り組んでいる。また命を守ることに教職員の意識も高い。 <b>【課題】</b> ○登校しぶりや不定愁訴を訴える生徒が少なくないこととそれに対応する職員の経験不足は課題である。 ○毎月の安全点検の確実な実施と生徒への注意喚起、生徒自身の安全への意識を高めることに課題が見られる。	・魅力があり生徒の活力を育成する学校行事の推進—生徒の自立を促すという大前提のもと— ・きめ細かく対応する生徒指導、教育相談の充実、生徒の視線に合わせた教育相談の実施	① 生徒会や生徒委員会を活性化して生徒の活動の場を増やす。 ② コロナ禍の閉塞感を打ち破る、ポストコロナの新しい学校行事を実施する。 ③ リーダーを育成するという教職員の視点を重点化する。	① 学校評価における「木崎中が好き」の肯定的な回答を8割以上得られたか。 ② 生徒が積極的に学校生活を送り、行事等に取り組めたか。	① 学校評価における「木崎中が好き」の肯定的な回答は82.8%であった。 ② コロナ禍の閉塞感を打ち破り、生徒が積極的に行事等に取り組むことができた。	A	・ポストコロナの新しい学校教育をさらに推進する。 ① 生徒会や生徒委員会を中心に生徒主体の教育活動を充実させる。 ② 生徒の意見を取り入れながら、ポロシャツ、男女同一標準服を導入する。	・学校評価における「木崎中が好き」の肯定的な回答は、母校を誇りに思う気持ちで大切である。 ・引き続き、子どもたちの発意を大切にしていきたい。 ・Sola ルームについて、市内一斉に同じように対応できるようになるのは、とてもよいことだと思う。
3	<b>【現状】</b> ○学校運営協議会で本校生徒につけたい力、並びに地域に貢献する生徒の育成という方向が確認されている。 ○関係機関との生徒に係る連絡会は年2回開催することが定着している。 ○コロナ禍で、地域との関りが少なくなっている。 <b>【課題】</b> ○地域との連携に関して、教員の働き方改革との両立が課題である。 ○学校運営協議会で熟議された内容の周知と具体的な取組の実践を通して、地域とともにある学校づくりを進めていく。	・保護者、地域への学校公開 ・木崎中生が取り組む地域活動と、地域のボランティア活動への参加	① 学校公開日年1回、授業参観年3回、学級懇談年3回実施する。 ② 学校からの各種便りをペーパーレス化し、学校ホームページによる情報発信へ切り替える。	① 学校評価における「学校や生徒の活動の様子が保護者に伝わっているか」の肯定的な回答が9割を超えているか。 ② 学校ホームページが毎週更新されたか。	① 学校評価における「学校や生徒の活動の様子が保護者に伝わっているか」の肯定的な回答は4.5%下がった。 ② 学校ホームページは、月に5回以上は更新したが、更新されない週もあった。	B	・学校ホームページによる情報発信をさらに推進し、保護者に関心を習慣化させる。 ① ホームページ担当を組織化し、更新をシステム化する。 ② ホームページの更新を頻繁に行い、閲覧頻度を上げる。	・学校のホームページについて、いろいろなアプリを活用して見やすくしたらどうか。 ・学校安心メールで、「学校のホームページを見てください」などのメール文の時は、そこにホームページのURLを付けてもらおうと助かる。 ・地域の方は、なかなかホームページを見ないのではないかと。 ・来年度も地域の行事に中学生の協力をお願いしたい。
4	<b>【現状】</b> ○教育DXの推進とICTの活用においてエバンジェリストが率先して情報提供をしている。 ○研修担当が計画的に事故防止や資質向上に関する研修を行っている。 <b>【課題】</b> ○教職員の経験値の差があり、資質向上の研修が絶えず必要である。 ○教科の特性や経験年数によってICTの活用状況に差がみられる。	・教育DXの実現を目指し学校教育のプロとしての自覚をもち、働きがいのある学校づくり	① 毎月の校内研修に加え、エバンジェリストによる自主研修を実施する。 ② 学習評価に関する要請訪問を実施し、共通理解を図る。 ③ シン・GIGA スクール構想推進のために必要な環境(ホワイトスクリーン、タイマー等)を整備し、黒板を使用した一斉授業から脱却する。 ④ Teams の活用による会議資料・情報共有のペーパーレス化・時間短縮を実現する。	① 生徒が授業でタブレットを毎日活用しているか。 ② 全ての教員が日常的にICTを活用する状況になったか。 ③ 学習評価に関し、各学年、各教科で共通理解され、指導と評価が一体化しているか。 ④ 全教室にシン・GIGA スクール構想推進のために必要な環境が整えられ、黒板を使用した一斉授業から脱却できたか。	① タブレットを授業で毎日活用していると答えた生徒は47.2%で市平均を10.7%上回った。 ② 全ての教員が日常的にICTを活用している。 ③ 学習評価に関する要請訪問を実施し、各学年、各教科で共通理解を図った。 ④ 全教室にホワイトスクリーンを設置してプロジェクターを活用する環境を整え、黒板を使用した一斉授業から脱却した。	B	・タブレットの活用は、学年によって差があるので、全ての学年の授業で毎日活用することが課題である。 ① ICT等の思考ツールを授業で活用するための校内研修を毎月行う。 ② 教職員にオンラインを含めてICTの効果的な活用に関する研修を奨励する。 ③ 「学びの指標」のICTの効果的な活用を目標値に設定して授業改善を進める。	・ホワイトシートが設置されても、相変わらず黒板と同じような使い方の一斉授業をしている教員がおり、ICTの活用技能に差がある。 ・ICTの活用技能について、教員の研修の充実が必要ではないか。

学校運営協議会による評価  
 実施日令和6年2月15日  
 学校運営協議会からの意見・要望・評価等

目指す学校像	一人ひとりの生徒が誇りをもち、保護者・地域住民に信頼され、未来を拓く学校の創造
--------	---

重点目標	1 教育DXのもと学習者が主体的に学ぶ個別最適な学びの構築と授業改善の推進 2 積極的な生徒指導と教育相談の推進により安心安全な学校づくりと活力ある学校行事の推進 3 学校運営協議会による地域とともにある学校づくりと地域で活躍する生徒の育成 4 同僚性を高め、協働して教育を推進する学校づくりのための教職員研修の充実
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達	A	ほぼ達成	(8割以上)
成	B	概ね達成	(6割以上)
度	C	変化の兆し	(4割以上)
	D	不十分	(4割未満)

学 校 自 己 評 価							学校運営協議会による評価		
年 度 目 標			年 度 評 価				実施日令和 年 月 日		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	【現状】 ○全国学力・学習調査や市の学習状況調査では、市平均をやや上回っている。 ○学校評価における「一人ひとりに合ったきめ細かな学習支援を行っているか」の問いに対し、生徒の肯定的な回答は7割程度である。 ○「タブレット端末を授業で毎日活用している」と回答した生徒は5割を切っている。 【課題】 ○主体的に学ぶ姿勢の育成と個別最適な学びの構築が課題である。 ○学習に対しての興味・関心を広げ探究的に学ぶ生徒の育成を図る必要がある。 ○ICTの効果的な活用と、主体的に対話的な深い学びの指導の工夫と改善を追究する必要がある。	・主体的な学びを進めるための情報端末の活用、授業改善 ・実生活に生きる学びのための各教科の動機づけと教科横断的な学習の工夫	④ 文部科学省の「リーディングDXスクール事業」実践指定校の委嘱を受け、全教員でICTを効果的に活用した授業を行う。 ⑤ 自分の学習課題を自分で決めて取り組む朝チャレンジを実施する。 ⑥ 「学力向上カウンセリング学校訪問」を実施し、効果的な指導法を追究して生徒の学力向上を図る。	③ 学校評価における「一人ひとりに合ったきめ細かな学習支援を行っているか」の問いに対し、生徒の肯定的な回答が80%以上となったか。 ④ 「タブレット端末を授業で毎日活用している」生徒が80%以上となったか。					
2	【現状】 ○学校評価における「木崎中が好き」の問いに対して、生徒、保護者とも肯定的な回答は8割を超えている。「連絡・相談に適切に対応している」では、保護者の肯定的な回答は8割を超えている。 ○安全教育における避難訓練は概ね真剣に取り組んでいる。また命を守ることに對しての教職員の意識も高い。 【課題】 ○登校しぶりや不定愁訴を訴える生徒が少なくないこととそれに対応する職員の経験不足が課題である。 ○毎月の安全点検の確実な実施と生徒への注意喚起、生徒自身の安全への意識を高めることに課題がある。	・魅力があり生徒の活力を育成する学校行事の推進—生徒の自立を促すという大前提のもと— ・きめ細かく対応する生徒指導、教育相談の実施	④ 生徒自身で学習課題を設定する授業を実践する。 ⑤ 他者との対話や協働により、自分の考えを広めたり深めたりする授業を実践する。 ⑥ 「学びのポイント」の視点に基づく授業を実践する。	③ 「学びの指標」の「主体的な学び」の平均値が3.3以上となったか。 ④ 教科横断的な指導を充実させ、SDGsとESDを意識したSTEAMS TIMEを実施できたか。					
3	【現状】 ○学校運営協議会で本校生徒につけたい力、並びに地域に貢献する生徒の育成という方向が確認されている。 ○関係機関との生徒に係る連絡会は年2回開催することが定着している。 ○部活動の地域移行と男女同一標準服の導入についての意見交換を行っている。 【課題】 ○地域との連携に関して、教員の働き方改革との両立が課題である。 ○コロナ禍以降に着任した教員への地域とともにある学校づくりの啓発が必要である。	・保護者、地域への学校公開 ・木崎中生が取り組む地域活動と、地域のボランティア活動への参加	③ 学校公開日年1回、授業参観年3回、学級懇談年3回実施する。 ④ 学校からの各種便りをペーパーレス化し、スクリーンを導入してスマホに直接配信する。 ⑤ ブログを新設する等、学校ホームページを充実させる。	① 学校評価における「学校や生徒の活動の様子が保護者に伝わっているか」の肯定的な回答が9割を超えているか。 ② 学校ホームページが毎週更新されたか。					
4	【現状】 ○教育DXの推進とICTの活用においてエバンジェリストが率先して情報提供をしている。 ○研修担当が計画的に事故防止や資質向上に関する研修を行っている。 【課題】 ○教職員の経験値の差があり、資質向上の研修が絶えず必要である。 ○教科の特性や経験年数によってICTの活用状況に差がみられる。	・教育DXの実現を目指し学校教育のプロとしての自覚をもち、働きがいのある学校づくり	⑤ 大東小と連携したリーディングDXスクール事業を小・中一貫教育により実践する。 ⑥ エバンジェリストによる自主研修を実施する。 ⑦ 研究発表会、ICT教育先進校等への視察・派遣を定期的に行う。 ⑧ デジタル採点システムを導入する等、校務を徹底的に効率化する。	⑤ 全ての教員が日常的にICTを活用する状況になったか。 ⑥ 「学びの指標」の「ICTの効果的な活用」の平均値が3.3以上となったか。 ⑦ リーディングDXスクールとしてICTを効果的に活用した授業を学校内外へ公開できたか。					